

真言院 寺 報

平成 27 年 7 月号



(境内に咲くサツキと水子地藏像 6月17日撮影)

法要案内

7月15日(水)午後1時より

しゅうそこうぼうだいし
宗祖弘法大師
ごたんじょうえほうよう
御誕生会法要

を勤修いたします。

正午より 昼食のご接待

婦人部手作りの美味しい昼食をご用意
しております。

午後1時より 本堂にてお勤め

午後2時より 法 話

室蘭市 大正寺 副住職
松尾 法 幸 僧正

※ 塔婆供養 (一供養 五百円)
受付いたします。



お寺さん おしえて!



Q. “おりん”は何回たたいたら
いいですか?

A. 私は、お経の始まりに2回、終わりに1回
鳴らすと本山で教わりました。また、祈願などの
ときには一祈願につき一打、打ち鳴らします。「仏
壇などで手を合わせるときに何回鳴らせばいい
か?」とよく聞かれますが、これについては本山
で教わったことはありません。ただ、「りん」には
その澄んだ音で自分の心を清浄にするという意
味があるそうなので、一打、その音を響かせれば
いいと思います。

真言院の

「これ知ってる??」



本堂にあるこちらは「撫で^{ごこしよ}五鈷杵」といいます。五
鈷杵とは仏の智慧を表す法具です。邪気を打ち消し、
厄除けになるともいわれます。撫でることで御利益が
あります。お寺にお越しの際はぜひ撫でて御利益を
いただいでってください。

<発行元> 金胎山 真言院
北海道虻田郡真狩村字真狩 102 番地
(TEL) 0136-45-2644
(FAX) 0136-45-3035
(E-mail) makkari102@gmail.com
(facebook) <http://facebook.com/makkari102>

facebook ページに
「いいね!」お願いします!

日々のできごと
更新中♪



www.facebook.com/makkari102

高野山旅行に行ってきました

4月4日～7日、檀信徒の皆様と高野山・京都などの団参旅行へ行ってきました。今年は弘法大師空海によって高野山が開創されて1200年の節目の年です。この記念すべき年に高野山では4月2日から5月21日まで50日間にわたる大法要が行われていました。高野山での大法要の参拝と、その他にもいろいろと観光を楽しんできました。



ちゅうもん
の「中門」です。中門は1873(天保14)年に焼失し、今年172年ぶりに再建を果たしたものです。また、同じく壇上伽藍にある金堂の御本尊「薬師如来」もたいへん注目されていました。こちらは昭和9年に金堂が再建された際に作られたご本尊で、作られて以来初めての御開帳となります。また、昭和9年の再建以前も、金堂の御本尊は高野山開創から1200年間秘仏とされていて今まで御開帳されたという記録が残されていないのだそうです。

さらに高野山では大法要の期間のみ行われている「結縁灌頂」を受けることができました。「結縁灌頂」とは、仏様の世界を表す曼荼羅に華を投げ入れ、曼荼羅の仏様と縁を結ぶというとても厳格な儀式です。1200年の記念の年に高野山でありたいご縁をたくさんいただいてまいりました。

高野山の宿坊に一泊し、旅行2日目は高野山の奥の院や伽藍をお参りました。奥の院は弘法大師がいらっしゃる高野山の中でも最も神聖な場所です。豊臣秀

吉、織田信長、武田信玄などをはじめとした歴史上の人物の古いお墓が立ち並ぶ1.5kmほどの参道を歩いて奥の院の御



廟へと向かい、御廟前でお参りいたしました。高野山をお参りしたあとは京都に向かいました。夜は祇園で舞妓さんの芸を見ながらの会食でした。

旅行3日目、京都では金閣寺、仁和寺、東寺などを参拝しました。京都のお寺はどこも桜が満開で綺麗でした。少雨の影響で桜が散り始めていましたが、散った花びらがピンク色の絨毯となりさらに美しい風景になっていました。また、嵐山で自由散策を楽しみ、夜は日本三大名湯のひとつ、兵庫県の有馬温泉に宿泊しました。

旅行4日目は宝塚大劇場にて宝塚歌劇団の演劇を鑑賞しました。その後、伊丹空港から飛行機に乗り新千歳空港に戻ってくると、北海道は雪がちらついていました。桜満開の暖かさに慣れてしまっていたため北海道の寒さに驚きつつ、それぞれの帰路につきました。

実は今回の旅行、住職は法務のためほとんど参加することができませんでした。この記事は参加された檀信徒の皆様から聞いた感想をもとに書きました。「私も行きたかったなあ〜」と、実は少しだけ悔いが残っています。高野山などへの旅行は数年に一度企画いたします。またご案内いたしますので、興味のある方は次の機会にぜひ一緒に行きましょう。



尼僧のわたし

「手紙のあたたかさ」

高野山大学に通っていた頃の友人が尼僧になるために4月から修行に入りました。彼女は私と同じくお寺の一人娘でした。私は最短コースの百日間だけの修行でしたが、彼女の修行は一年間。私は髪の毛を残したまま修行できましたが、彼女は剃髪しての修行。27歳の彼女の決断に私も頭が下がります。

そんな彼女に手紙を書きました。いつもなら電話やメールをするところですが、修行中なので彼女は携帯電話を持っていません。手紙を送って3週間後、彼女から返事が届きました。突然の手紙に涙を流すほど喜んでもらったこと、修行での様子やそこで出会った人たちの話…。いつもより少し乱れた字に修行の辛さを想像しながら、私は何度も手紙を読み返しました。彼女を励ますつもりで書いた手紙でしたが、彼女からの手紙に私も励まされました。今は便利な世の中になり、電話で声を聞くこともできるし、テレビ電話などでは顔を見ながら話すこともできます。しかし手紙にはそれとはまた違った温かさがあります。綺麗ではない字でもまとまっていない文でもいいから、私ももっと手紙を書くことを大事にしようと思いました。